



大学時代の若き情熱を思い起こさせてくれます



昨年の白鷗大学での講義・実習

県内大学の授業を行っています

栃木県獣医師会では、県内の教育学部のある大学で「生活科」の授業の一環として生活科・講義と実習を行っています。

初等教育（幼稚園、保育園、小学校低学年）において、動物と接することの大切さが認められ、多くの幼稚園、保育園や小学校において動物を飼育されています。

大学で教育学を学ぶ学生さんに、初等教育で動物と接することが大切である理由、望ましい動物との関わり方、動物の習性や飼育法などをお話させて頂いています。また、獣医師会が小学校で行っているふれあい教室を、学生さんに子供役として参加していただき、子供たちが感じるだろうことを感じていただく実習も行っています。

昨年度は、宇都宮大学、作新大学、白鷗大学で実施し、今年度は、作新大学、白鷗大学で実施します。

：教育現場での動物飼育の評価



はは2匹あること
ラサギはよせをかか
ひしんごうは、ははからたて
ラサギはらんちをたへる。

絵を描かせたり作文を書かせてみると、動物との関わりが、子供さんどのような成長をさせたかを垣間見ることができるようです。

左の画像は、生活科の授業として「ふれあい教室」を行い、後日、子供さんに描いてもらった絵画と「ふれあい教室で分かったこと」です。

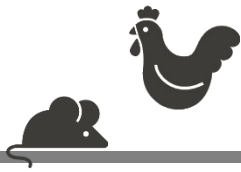
絵画からはふれあい教室が楽しかったことがうかがえます。文章からは、理学的な知識を得たことがうかがえます。ふれあい教室が、楽しさを伴った知識を得る時間であったことが分かりまね。

右の画像は、小学校で飼育していたチャボが亡くなった時、チャボ当番をしていた2年生が書いた「亡くなったチャボにあてた手紙」の抜粋です。

「～(略) わたしは、ちゃぼちゃんをしなせたくありませんでした。おとおさんも、ちゃぼのことが好きなので、ちゃぼちゃんがしんじやったっていつらかなしんじやうとおもいます。わたしもちゃぼのことが好きでした。でもしんじやったのでかたしいです。ちゃぼごやはのこしてほしいです。あとちゃぼごやにあるちよこですってかいてあるなまえもすてたくないです。(略)～」

毎日の飼育活動を通して継続的に動物と関わることは、大きな試練に遭遇しますが、感情の深い部分が影響を受け、多項的な感情や深い悲しみの感情、名残惜しさの感情が芽生えたことがうかがえますね。

わたしは、ちゃぼちゃんをしなせたくありませんでした。おとおさんも、ちゃぼのことが好きなので、ちゃぼちゃんがしんじやったっていつらかなしんじやうとおもいます。わたしもちゃぼのことが好きでした。でもしんじやったのでかたしいです。ちゃぼごやはのこしてほしいです。あとちゃぼごやにあるちよこですってかいてあるなまえもすてたくないです。(略)～」



根拠に元づく学校動物飼育

学校動物飼育の始め方：準備

➤ 動物飼育の準備：ねらい

今まで動物がいなかった小学校では、動物と子供さんとの関わりの中で、子供さんたちに何を獲得してもらいたいのか、いわゆる“ねらい”を明確にします。

例えば、ねらいが一、二年生を対象にした、“いきものとなかよくなろう”であれば、飼育を担当する一、二年生に大きすぎない動物、ハムスターやモルモットが適しているでしょう。ハムスターやモルモットは環境変化（季節変化や気温変化、気象変化など）に弱いので、必然的に教室内飼育が選択されます。チャボ、ニワトリやウサギは、一、二年生が一人で抱っこするには勇気が要り、仲良くなる感覚をもちにくいかもしれません。

チャボ、ニワトリやウサギは三、四年生を対象にした、“生命尊重”や“動物愛護”をねらいとしている場合により適しています。チャボ、ニワトリやウサギは室内飼育も可能ですが、飼育舎での飼育の方がより弊害が少ないでしょう。

このように、ねらいを明確にすることで、動物の種類や飼育形態、飼育担当者が導かれてきます。

➤ 動物飼育の準備：支援

動物飼育を開始するに当たり、支援の体制を整えておく必要があります。小学校での動物飼育では、教職員による支援、保護者による支援、獣医師や教育委員会（県や市町）、地域などの学校以外の関係者による支援があると良いでしょう。

例えば、保護者の協力は週末や連休、長期休業中などを利用して、動物をホームステイさせる場合の手助けになります。（ホームステイは、子供さんにとっては“アイドル”が家に来るくらいの楽しみです。）

獣医師の支援は、動物の迎え入れ前から迎え入れ時、日々の飼育での問題発生時、病気の時、亡くなった時に心強い存在となるでしょう。最寄りの動物病院の支援があると更に心強いでしょう。獣医師の支援に関しては、栃木県獣医師会事務局にお問い合わせください。

➤ 動物飼育の準備：飼育舎

ほとんどの小学校には、飼育舎があり、その飼育舎を再利用することが可能です。ただし、老朽化している場合には補修が必要です。補修するべきポイントは、1)雨漏り、2)網（フェンス）の穴（外部からの動物の侵入対策）、3)施錠構造（夜間の人の侵入対策）、4)排水口（床がコンクリートの場合）、5)土床の補修（土を足して厚く踏み固めるか、コンクリートを敷く）、6)巣箱の設置などです。費用が十分に用意できれば新築することが望ましいのですが、新築できなくてもリフォームで十分に良い環境を整えることができます。

動物の種類により、構造的に配慮すべき点が異なりますので、その際は遠慮なく獣医師会にお問い合わせください。

➤ 動物飼育の準備：時期

動物飼育の開始時期は4月から5月が望ましいでしょう。この時期は学校自体も一番慌ただしい時期ですが、新学年と時期を同じくして始まることで子供さんたちも自分たちと重ね合わせたストーリーを作りやすいです。真夏や真冬の飼育開始は、気候環境ストレスと相まって弱りやすいので避けた方が良いでしょう。

次号予告：「チャボのチョコちゃんとお別れ」を特集します。

小山市立豊田南小学校で飼育されていたチャボのチョコちゃんは9月に老衰で亡くなりました。チョコちゃんの死に子供さんたちが何を感じたかを特集します。





2016 10 22



Ō]]] \ùì\óÁ\Ð\Ê\¿\®

) μ \øō þ Å\¿\γ\Ñ8 ¾ŌŌ]]] \¶ \èðèÁÉž

